

バラ園

(メイン会場)

バラ園では、モダンローズ・オールドローズや世界の野生種など約700種類のバラが咲き誇ります。

また、バラ園から見る瀬戸内海や島々の景色はとてきれいで見応えがあります。

バラの歴史をたどる ~オールドローズ~



アポセカリ・ローズ G
ロサ・ガリカ・オフィナリスともいう。紀元前から栽培されていて、現在知られている栽培バラで最も起源が古い。名前は直訳すると「薬屋のバラ」。



ヴァリエガータ・ディ・ポロニア B
1909年。絞り花の中でも最も人気のある品種のひとつ。カップ咲きで強いダマスク香。今年からアーチ仕立ての株も登場。



マダム・イザーク・ペレール B
1881年。ブルボン系では最も伸張し、大輪のつるバラになる。香りはラズベリーのよう。秋にも咲く。



オートム・ダマスク D
西洋で古くから知られていた秋にも返り咲くバラ。強いダマスク香がある。系統名はシリアの首都ダマスカスに由来する。



ウィリアム・ロブ M
1855年。咲き進むと赤紫から青紫に変化する。樹高が高くつるばらとして利用できる。つぼみにコケ状の突起があるモスローズの一種。



ケンティフォリア・ブラータ C
しわのある葉と大輪の花が特徴。フランス革命期のバラの画家、ルドゥーテの「バラ図譜」に描かれている中でも特に人気があるバラのひとつ。



シャンフェンレン (香粉蓮) ChまたはT
アプリコット色で剣弁高芯咲きからロゼット咲きに変化する。ティー系の「スヴニール・テリス・バルドン」と同一種とする見解がある。



アントワヌ・デュシェ HP
1866年。ディーブローズのカップ咲き。香りも良い。木立性が強く秋にもよく咲く。黄花モダンローズの祖「ソレイユ・ドール」の片親。



フランシス・デュブリユ T
1894年作出。名は作者本人の名前から。深いダークレッドで、ティー系としてはめずらしい花色。

風景をつくりあげる ~つるバラ~



エルフルト HMask
1931年。やさしい丸弁の外側から内側へ向かってピンクから白へのグラデーションと、黄金色の花芯の対比が美しい。



シンパシー LCI
1964年。つやのある葉に深い赤色の花。赤つるバラの代表的名花。香りもある。



アンクル・ウォルター LCI
1963年。整った剣弁高芯の大輪花で、秋まで繰り返し咲き続ける。



レディ・ウォーターロー HTまたはCI
1902年。クライマーとしては古い品種。半八重のゆったりとした花姿の大輪花で香りがある。返り咲きも多い。



ロージー・マントル LCI
1969年。鮮やかな濃ピンクの剣弁高芯花で、香りがある。



ラベンダー・ラッシー HMask
1960年。ラベンダーピンクのかわいらしい花がびっしりと咲く。ムスクの香りがある。



アメリカン・ピラー HWich
1902年。最も遅く開花する品種の一つ。つるは5m以上も伸び、赤い小さな花が株全体にびっしりと咲く。

メイドイン ジャパン ~日本で育成されたバラ~



雲取 HT
1940年。日本最初のバラ育種者で、海軍大佐でもあった有沢四十九郎の作。日本のバラの歴史上重要な品種だが、当園にしか保存されていなかった。



天の川 F
1956年。鈴木省三の作。鮮烈な黄色の一重。氏が初めて海外のコンクールで入賞した記念すべき品種。



天津乙女 HT
1960年。寺西菊雄の作。名は宝塚歌劇団のスターから。樹形がまとまりやすく、花壇用に向く。世界的評価を得た。



長良 HT
1940年。「雲取」同様、有沢四十九郎の作。日本のバラの歴史上重要な品種だが、当園にしか保存されていなかった。



花見川 CIMin
1986年。鈴木省三の作。名は千葉県にある河川から。ピンクの平咲き花を株一面に咲かせる。

「花束」のようなバラ ~フロリバンダ系~



ブルス・アン・アーヘン F
1909年。現代のフロリバンダ系品種と血縁関係はない。ドイツで作出されたが、イギリスで人気が出た。イングシッリユガーデンでは草花と混植されることが多い。



リリー・マルレーン F
1959年。名は第二次世界大戦中に流行したドイツの歌謡曲から。真っ赤な花色で、散り際まで退色が少ない。



ベティー・プライヤー F
1935年。ごく初期のフロリバンダ系品種。ハイブリッド・ポリアンサ系とする見解もある。シンプルで一重咲きで一茎に多数の花を咲かせる。



フロリッパ F
1953年。花付きが抜群に良く、しかも丈夫で育てやすい。フロリバンダ系の有望な世に知らしめた品種。



アイスバーグ F
1958年。半八重の純白の花。光沢のある濃色葉とのコントラストが美しい。四季咲き、多花性の有名花。

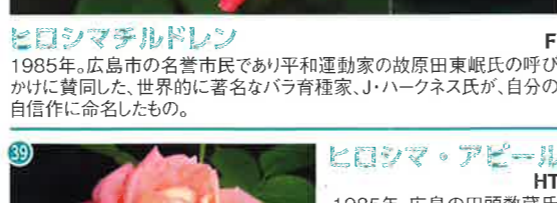
ヒロシマとバラに平和へのおもいを込めて



ヒロシマチルドレン F
1985年。広島市の名誉市民であり平和運動家の故原田東峯氏の呼びかけに賛同した、世界的に著名なバラ育種家、J・ハークネス氏が、自分の自信作に命名したものの。



レッド・ラジアンズ HT
1916年。ラジアンズの枝変わり。当園の株は、長崎で自らも被爆し、原爆被害者の救護に当たった故永井隆博士の邸宅にあったバラを、広島に植樹したもの分け株。



ヒロシマ・アピール HT
1985年。広島市の田頭数蔵氏作出。1981年にローマ法王ヨハネ・パウロ二世が広島で発表した平和アピールをイメージした。



広島平和記念公園 F
1999年。日本バラ会中国支部と広島バラ会が、ドイツのエルトビル市に原田東峯氏を団長として訪れ、広島と名のつくバラを寄贈した。その返礼として同市から1999年1月に広島市に寄贈された。



ピース HT
1939年にフランスで作出されたが、苗木は戦火を逃れアメリカに渡った。終戦直後の1945年に平和への願いをこめて名づけられた。

主なモダンローズの系統

ハイブリッド・ティー (HT)
19世紀後半、ハイブリッド・パーベチュアル (HP) にティー (T) が交配されて成立した。完全四季咲きで大輪花。モダンローズの代表的な系統。

フロリバンダ (F)
20世紀に入り成立した。完全四季咲きで房咲き中輪花。多花性で現代のバラ園には欠かせない系統。

クライミング (CI)
つるバラの総称で、木立性の品種 (HTやFなど) から枝変わりつる性になったものや、つる性の原種から改良されたラージフラワー・クライマー (LCI) など、遺伝的な背景は様々。

ミニチュア (Min)
「ルーレット」(ロサ・キネンシス・ミニマの一系統) の性質を受け継ぐ、葉も花も小さな系統。つる性のクライミング・ミニチュア (CIMin) もある。

ハイブリッド・ムスク (HMask)
20世紀に入ってから確立した系統で、多くは返り咲き性がありコンパクトなつるバラとなる。ムスクローズに似ていることから名づけられた。

ハイブリッド・ウィグワナ (HWich)
テリノイバラをもとに改良された系統。つる性で枝垂れ性がある。小花が房咲きに咲く品種が多い。

ハイブリッド・ルゴサ (HRG)
ハマナスをもとに改良された系統。ドイツやハンガリーなどの寒冷地で特に改良が進んだ。耐寒性に優れる。

シュラブ (S)
他のどの系統にも含まれないもの。近年の品種は交配が複雑になり、シュラブに分類されることが多い。多くは半つる性。

主なオールドローズの系統

ガリカ (G)
中近東からヨーロッパにかけて紀元前からあった系統で、薬用・香料用。コンパクトな樹勢。自根ではひこばえが多数出る。

ブルボン (B)
19世紀初頭にインド洋ブルボン島 (レユニオン島) にあった西洋・東洋系混血バラに由来する系統。返り咲きする品種が多い。

ノアゼット (N)
19世紀初頭にアメリカで育成された西洋・東洋系混血バラ。返り咲き性で、半つる、つる性の品種が多い。

ハイブリッド・パーベチュアル (HP)
19世紀中頃、様々な西洋・東洋系混血バラが複雑に交配され誕生した。大輪・返り咲きで、ハイブリッド・ティー (HT) が出現する前の代表的系統。

ティー (T)
中国原産のロサ・ギガンテアに由来するティーの香りを持つ系統。

その他の系統

原種 (Sp) 世界各地にある野生のバラ。植物公園には約100種あります。

ログガーデンのバラ



ザ・ビルブリン S
1983年。イングリッシュローズの一種。直立ぐみに早く成長し、つるばらとして楽しめる。ティーとミルラの香り。花芯は黄色く、外側になるにつれ白っぽくなる。



F. J. ブルー・テンドルスト HRG
1918年。花弁にカーネーションのような切れ込みが入る個性的な品種。返り咲きもある。ハマナスから改良された。



夢乙女 CIMin
1989年。小さな花が株いっぱい咲く。咲き始めはピンクで、その後白く退色していく。枝は細くて曲げやすく、自由な形に誘引することができる。「宮城野」の枝変わり。



ルイーズ・オディエ B
1851年。インド洋に浮かぶブルボン島で発見された雑種バラの子孫。乙女ツバキのような花をフェンスに多数咲かせる。ダマスクの香りがある。